

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立日根野中学校 第3学年，全生徒

実施生徒数（ 163人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語，数学及び英語。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，国語及び算数・数学においては，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。英語においては，選択式，短答式及び記述式の問題に加え，「話すこと」に関する問題の解答は，原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

・平均正答率は、全国と比べて2.8ポイント上回っている。【言語に関する知識・理解・技能】では全国
の平均正答率より7.3ポイント、【書く能力】では、2.7ポイント上回っている。対して、【読むこと】
においては、3ポイント下回っている。

平均正答率（本校 74／泉佐野市 65／大阪府 70／全国 72.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【書くこと】 3ー 意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する (95.0/87.4)</p> <p>【読むこと】 1ー 「日本文化の中には、海外でも広く知られているものがあります、…第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する (58.1/63.9)</p>		<p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 1四 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く (65.0/56.8)</p> <p>4 語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する (85.0/78.7)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	48.5	61.7	○	13.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	84.6	77.6	◇	7.0
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	85.3	77.4	◇	7.9

○ 自分の考えを相手に話したり、書いたりする活動を行うことが授業内容の理解につながっていると考えられる。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

- 平均正答率は全国と比べて6.2ポイント程度上回っている，とくに，数と式の分野においては9.2ポイント，関数分野においては7.2ポイントと大きく上回っている，その他の分野においても，全てにおいて全国を上回る結果となった，しかし，そのような中で，知識・理解の観点において，全国より上回ってはいるが，その差が2.5ポイントと，他と比べるとわずかな差となっている，この結果から，技能や見方・考え方の観点に関する設問は，よく出題される傾向にあるため慣れてはいるが，数学的な用語の意味が理解できているかを問う知識・理解の観点に関する設問に対しては，他に比べ，苦手な傾向にあることが見受けられる

平均正答率（本校 66／泉佐野市 54／大阪府 58／全国 59.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>【数と式】 簡単な連立2元1次方程式を解くことができる</p> <p>2 連立方程式 $y = -2x + 1$ $y = x - 5$ を解く (83.9/70.1)</p> <p>【関数】 反比例の表から，x と y の関係を式で表すことができる</p> <p>4 反比例の表から式を求める (61.5/48.9)</p> <p>【資料の活用】 簡単な場合について確率を求めることができる</p> <p>5 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき，2枚とも表の出る確率を求める (78.3/72.8)</p> <p>【関数】 事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することができる</p> <p>6 (2) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて，式やグラフを用いて，2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する (42.9/34.7)</p> <p>【図形】 結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見いだし，説明することができる</p> <p>7 (3) 四角形ABCDがどのような四角形であれば，$AF = CE$ になるかを説明する (63.4/53.3)</p>	<p>【資料の活用】 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる</p> <p>8 (1) 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から，読んだ本の冊数の最頻値を求める (64.6/57.9)</p> <p>【数と式】 与えられた説明を振り返って考え，式変形の目的を捉えることができる</p> <p>9 (1) 説明を読み，$6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する (73.3/57.4)</p> <p>【数と式】 事柄が成り立つ理由を説明することができる</p> <p>9 (2) 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する (66.5/59.7)</p> <p>【数と式】 総合的・発展的に考察し，得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる</p> <p>9 (3) 連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき，$2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ (78.9/69.6)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	50.9	57.9	◇	7.0
数学の勉強は大切だと思いますか	76.1	84.2	◇	8.1
数学の内容はよく分かりますか	79.1	73.9	◇	5.2
数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	67.4	76.2	◇	8.8

○数学の内容はよく理解している。

○数学が身近なものであると考えられない傾向にあるので、いろいろな例を挙げることや、授業の展開で、興味を持たせることが必要である。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（英語）

1. 全体の傾向

・平均正答率は全国に比べて6.0ポイント上回っている。とくに、書くこと分野においては11.5ポイント、読むこと分野においても5.2ポイント上回っている。ほとんどの分野で全国を上回る結果となった。しかし、聞くこと分野においては全国と比べて0.9ポイント下回っている。とくに、教室英語を聞いて適するものを選ぶ、留学生からの音声メッセージに対してアドバイスを書く問題は他と比べると大きく下回っている。また、話すこと分野においても誕生日を答える問題が11.2ポイント全国よりも下回っている。

この結果から、英文や英語の文章を読んだり書いたりすることは、英語の知識的なものなので得意であるが、書くこと、聞くこと、話すこと分野においては、内容が理解できていても、自分の意見や考えを表現することが苦手な傾向にある。

平均正答率（本校 62／泉佐野市 53／大阪府 56／全国 56）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

英語	特徴がみられた設問
<p>【聞くこと】 教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる 1 (2) 英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選ぶ (82.6/88.6)</p> <p>日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる 1 (3) 1 (2) と同様 (81.4/72.3)</p> <p>聞いて把握した内容について、適切に応じることができる 4 留学生からの音声メッセージを聞き、メッセージの内容を踏まえて、アドバイスを英語で簡潔に書く (1.9/7.6)</p> <p>【読むこと】 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる 5 (1) 英文を読んで、() 内に入る最も適切な語(句)を選ぶ (85.1/79.4)</p> <p>まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる 6 英文を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選ぶ (68.9/62.9)</p> <p>まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる 7 会話文中の() 内に入る最も適切なものを選ぶ (39.8/32.8)</p> <p>書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる 8 英文を読んで文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書く (16.1/10.9)</p>	<p>【書くこと】 文の中で適切に接続詞として、最も適切なものを選択する 9 (1) ①適切な接続詞を選ぶ (90.1/79.9) 9 (1) ②適切な接続詞を選ぶ (72.7/58.2)</p> <p>一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる 9 (2) ①与えられた英語を適切な形に直し、会話を成り立たせる (79.5/73.6)</p> <p>一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる 9 (2) ②与えられた英語を適切な形に直し、会話を成り立たせる (46.6/28.9)</p> <p>与えられた情報に基づいて3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる 9 (3) ①与えられた情報に基づいて女性を説明する英文を書く (65.2/53.5) 9 (3) ②与えられた情報に基づいて女性を説明する英文を書く (44.1/32.9)</p> <p>与えられた情報に基づいて一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる 9 (3) ③与えられた情報に基づいて女性を説明する英文を書く (57.1/37.4)</p> <p>【話すこと】 月日に対する基本的な表現を理解して応答することができる 1 (1) カレンダーを見て少女の誕生日を答える (16.1/27.3)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
英語の勉強は好きですか	49	56	◇	7.0
英語の授業はよくわかりますか	74.3	66	◇	8.3
あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をした り職業に就いたりしたいと思いませんか	57	41.3	○	15.7
1, 2年生のときに受けた授業では、英文を読んで 概要や要点を捉える活動が行われていたと思 いますか	76.1	81.2	◇	5.1
1, 2年生の時に受けた授業では、聞いたり読んだり したことについて、生徒同士で英語で問答した り意見を述べ合ったりする活動が行われていた と思いませんか	69.3	77.4	◇	8.1

○英語の内容はよく理解している。しかし自己表現においては苦手な傾向にある。自己表現を行う授業を取り入れていく必要がある。

○文章を一文一文ではなく、全体の概要や要点を捉える取り組みをしていく必要がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身の様子】	将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国平均を下回っている	将来の夢や目標を持っていますか < 65 / 70.5 >
	読書が好きな生徒の割合が全国平均を上回っている	読書は好きですか < 79.1 / 68 >
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている生徒の割合が全国平均を下回っている	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか < 33.7 / 39.4 >
	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしてみたいと思っている生徒の割合が全国平均を下回っている	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思ったりしてみたいと思いませんか < 52.7 / 62.4 >
【学校での学習の様子】	学級みんなで話し合っ て決めたことなどに協 力して取り組み、うれし かったことがある生徒の 割合が全国平均を下回っ ている	学級みんなで話し合っ て決めたことなどに協 力して取り組み、うれし かったことがありますか < 76.7 / 82.8 >
	1, 2年生のときに受けた 授業で、コンピュータなど のICTを月に一度も使 わなかった生徒の割合が 全国平均を下回っている	1, 2年生のときに受けた 授業で、コンピュータなど のICTをどの程度使用し ましたか (月に一度も使わなかつ た生徒の割合) < 80.4 / 36.1 >

本校の取組

本校では「科学的なものの見方・考え方に立ち、自ら学び、考え、主体的に行動できる生徒（自立）」「友愛を重んじ、互いに高め合い、人権を尊ぶ生徒（敬愛）」「勤労を愛し、責任感の強い生徒（誠実）」3つを「めざす生徒の姿（教育目標）」として設定し、日々の教育活動を推進しています。本年度は「授業づくり」「集団づくり」「道徳教育の充実」の3点を重点課題として取り組みを進めているところです。

1. 授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を推進するとともに、評価について研修を深めてまいります。そのため、本校では「授業プラス1」を研究テーマとして掲げ、授業研究を進めています。通常の授業の中に「プチしかけ（プラス1）」を入れることを意識し、生徒が主体的に意見を述べ合う授業展開を工夫していこうというねらいです。また、授業をひとつの物語として捉え、学習のめあて（指導目標）を明確に示すとともに、指導方法の工夫によりクライマックスのある授業展開を心がけ、振り返り活動（学習評価）につなげていくことも意識しています。そのため、年間3回の研究授業を計画し、次期学習指導要領の方向性を見据えながら、「わかる授業」の実現をめざして教員個々の授業力の更なる向上を図っています。

本年度の全国学力学習状況調査の生徒質問紙からは、「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている」（本校 85.3/国 77.4）という項目で全国を上回ったほか、「国語の授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」（本校 62.0/国 64.4）の項目でも、全国平均は下回ったものの、昨年度の同じ質問に対する本校の数値（48.3）から大きく改善することが出来ました。徐々にではありますが一定の成果が出つつあると言えます。一方、「国語の勉強は好き」（本校 48.5/国 61.7）「数学の勉強は好き」（本校 50.9/国 57.9）「英語の勉強は好き」（本校 49.0/国 56.0）となっており、「国語の授業はよくわかる」（本校 84.6/国 77.6）「数学の授業はよくわかる」（本校 79.1/国 73.9）「英語の授業はよくわかる」（本校 74.3/国 66.0）の設問とは対照的な結果となっています。これは本校の子どもたちが「勉強はやらされているもの」と捉えている可能性を示しています。「将来の夢や目標を持っていますか」（本校 65.0/国 70.5）の結果にもそれは反映していると考えられます。子どもたちが高い意欲・関心・興味を持って学習に取り組めるよう、キャリア教育の視点からの更なるアプローチも大切です。

2. 集団づくり

生徒会活動や委員会活動等を通じて生徒の自治の力を育みながら、「互いの違いを認め合い高め合う質の高い生徒集団」の形成を図ります。生徒会執行部だけでなく、すべての委員会を巻き込んだ形でのあいさつ運動を展開したり、服装の乱れやスマホによるいじめ等の学校の課題について寸劇にする等の工夫をしながら全校集会で訴えたり、異学年による連合形式の体育大会で生徒自身が練習や応援を主導したりする取り組みを通じて、生徒の自治意識を高め、集団の質を高めていくことが学力向上にも密接につながっていると考えています。

本校には青少年指導員会を核として町会、婦人会、保護司会、更生保護女性会、民生児童委員会、子ども会、中学友の会、少年補導員、駐在さん等が、児童・生徒の健全育成のために緊密に連携を図っている育成会組織があります。また、町別リーダー養成組織として「かかしの会」も綿々と伝統を引きついでいます。本校の生徒が地域社会で温かく支えられながら成長していることがよくわかります。こうした経験は将来進路を切り開いていくための人間力の形成に深く関わっています。そこで、本校では地域学習等の取り組みを今後も推進してまいります。

3. 道徳教育の充実

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、「特別の教科 道徳」の指導方法や評価のあり方について、外部講師を招聘した校内研修を実施し、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てられるよう取り組みを進めます。

【これまでの取組】

- ・学年ごとに研究授業を開き、今年度の学力向上の研究テーマである「授業＋１～授業にプチしかけを～」をもとに主体的、対話的で深い学びの観点から協議をする
- ・授業保育作りチームのテーマ「安心して活動できる仲間づくり～聴き上手、伝え上手～」をうけて授業保育作りの授業アンケートを活用する
- ・授業規律マニュアルを作成して教室の環境作りを統一する、また、小中連携も視野にいて可能な範囲で授業規律を統一させる
- ・支援教育の観点から教室の環境もユニバーサルデザインを取り入れていく
- ・隠れた教育を教職員に意識づけて教室の環境をこまめにチェックする
- ・「めあて、ふりかえり」を全授業で完全実施するために各教職員にめあて、ふりかえりカードを配布する
- ・学校だよりや学年通信など授業改善の情報を発信する
- ・家庭学習を強化するために学年で統一した家庭学習を支援した対策を考える
- ・授業観察週間を設定して教職員間でそれぞれの授業の共有をする
- ・放課後に「まなびんぐ学習」を行い学力の向上に取り組む
- ・長期休業中に補充学習を行い基礎学力の向上を図る

【これからの取組】

- ・学年ごとに研究授業を開き、今年度の学力向上の研究テーマである「授業＋１～授業にプチしかけを～」をもとに主体的、対話的で深い学びの観点から協議をする
- ・授業規律マニュアルを作成して教室の環境作りを統一する、また、小中連携も視野にいて可能な範囲で授業規律を統一させる
- ・支援教育の観点から教室の環境もユニバーサルデザインを取り入れていく
- ・隠れた教育を教職員に意識づけて教室の環境をこまめにチェックする
- ・「めあて、ふりかえり」を全授業で完全実施するために各教職員にめあて、ふりかえりカードを配布する
- ・学校だよりや学年通信など授業改善の情報を発信する
- ・放課後に「まなびんぐ学習」を行い学力の向上に取り組む
- ・家庭学習を強化するために各教科で工夫した対策を考える
- ・授業観察週間を設定して教職員間でそれぞれの授業の共有をする
- ・長期休業中に補充学習を行い基礎学力の向上を図る
- ・職場体験学習、進路学習を通じたキャリア教育の充実を図り、夢や目標について考える機会を設ける
- ・授業内容と生徒の生活との関係を理解できるような授業展開を考えて実施する
- ・授業内容と関連付けて、外国の様子、特徴を知らせるなど、生徒が外国の興味に持てるような授業展開を準備する
- ・地域学習のフィールドワークでは、実際に身の周りの地域の人の話を聞いたり、現地を歩いてみたりして、生徒自身が様々な事柄を発見できるような取り組みを行う
- ・生徒自身がICT機器を用いる機会を特定の教科だけでなく様々な授業、活動で設ける